テーマ 5 ……生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲

体育的な活動の全体を通して生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を育む

本調査の結果から、「多様な運動の経験」「授業の楽しさ」「体力の向上」「家の人からの奨励」と卒業後も自主的に運動やスポーツをしたいと思う意欲との関連性が示唆された。このことから、学校生活だけではなく家庭・地域も含めた体育的な活動の全体の工夫が必要であるといえる。生涯にわたって運動やスポーツをする意欲を育むために様々な取組を行っている事例校を紹介する。

取組のポイント point

- 朝の時間帯や休み時間を利用した定期的な運動プログラムの提供
- 児童生徒が自分自身で工夫し、自主的に取り組めるようなしかけ
- 学校生活全体を通した様々な時間・空間・仲間との運動やスポーツの機会の提供
- 体育的行事や運動部活動を通じた家庭・地域との連携

生涯にわたって運動やスポーツに親しむ意欲を育てるためには、運動の楽しさや喜びを味わう経験、自ら考えたり工夫したりする経験が必要である。取組としては学校における教育活動の全体を通して行うこと、また家庭や地域との連携を図りながら日常生活における体育・健康に関する活動の実践を促すことが重要となる。

そこで今回は、「小学校／中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思いますか」との問いに対する児童生徒の肯定的な回答の割合が高い学校をもとに、①学校全体で体育・保健体育の授業以外に運動時間を確保する取組を行っている、②各家庭に運動やスポーツの意義や実施について説明・呼びかけ等を行っている、③放課後または休日の運動やスポーツについて、地域のスポーツ団体等との話し合いや連携があるといった学校としての取組の観点を踏まえて事例校を選定した。

朝の時間帯や休み時間を利用した運動プログラム

熊本市立向山小学校では、朝の時間に全校児童で運動を行う時間を設定し、1年を通じて様々な運動を経験できるよう年間実施計画が立てられている。利根町立布川小学校では、業間休みに的当てや紙鉄砲などの遊びを通した運動の実践がみられた。

体育的行事の工夫と活用

城里町立桂中学校では、体育祭に単純で簡単な動きの種目を設定し、生徒が楽しみながら競技に参加できるよう工夫している。また、体育祭に向けて行う練習は、運動部活動を引退した3年生が運動を実施する機会としても活用されている。

運動部活動を通した継続性のある運動やスポーツの活動

児童生徒の中には、部活動の引退を機に運動やスポーツへの意欲を低下させてしまう場合も少なくない。部活動が継続性のある活動となるよう、学校生活のみの取組に留まらず、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等も含めた地域の活動にもつなげていきたい。奄美市立名瀬中学校では市内や島内の他の学校の水泳部との合同練習や、地域の合同チームとしての大会出場のほか、小中合同練習や中高合同練習の取組が通年で計画されている。このような活動を通して、進学先でも同じ部活動に所属したいとする意欲を高めている。

学校・家庭・地域をつなげて多様な運動やスポーツの機会をつくる

生涯にわたって運動する意欲を育むためには、学校での体育的な活動の連携に加え、家庭や地域も巻き込んだ様々な時間・空間・仲間との運動やスポーツの活動の重要性が事例校の取組から読み取れた。運動の得意・不得意にかかわらず、体を動かすことの楽しさ・心地よさを感じられる経験が得られるよう、児童生徒を取り巻く運動やスポーツ環境の全体を見通した取組が求められる。

取材記録

様々な体育的な活動を通して運動やスポーツに関心をもち継続できるしくみ
～検討委員による 奄美市立名瀬中学校 訪問調査から～

名瀬中学校は「中学校を卒業した後も自主的に運動やスポーツをしたい」という回答が全国平均を大きく上回る。その背景には、学校生活の全体を通して生徒の運動やスポーツの興味・関心を高める様々な取組があった。

▲ 遊びの要素を取り入れ、夢中になれるように工夫した引っ張り相撲の様子

体育の授業の工夫

体育の授業では、生徒がまず運動を楽しめるよう工夫されていた。しっぽとり鬼ごっこやバドミントンのシャトルを使ったキャッチボール、ひもを使った引っ張り相撲などの様々な動きが含まれる運動を、遊びの要素を入れながら個人のペースで楽しんだり、仲間と競い合ったりしながら行っていた。その際に教員は運動のポイントやコツを簡潔に説明し、生徒が自ら考えて行えるよう配慮している。本調査の結果をみると体育の授業に対して男女ともに7割が「楽しい」と回答しており、特に女子の楽しさを感じる割合は男子を上回っている。生徒一人一人の体力・運動能力のレベルが違っても、それぞれが運動に夢中になれるような工夫があり、体育の授業の楽しさや運動に対する意欲を高めていると思われる。

生徒による自主的な活動の充実

朝のランニングは積極的な生徒を中心に始まり毎日実施されている。参加は強制ではないが、参加する生徒は徐々に増えている。より多くの生徒に興味をもってもらうための働きかけとして、活動の様子がわかる写真を体育館の入り口に掲示し、参加を呼びかける教員の一言を添えていた。また、冬季には生徒会主体の「外に出て遊ぼう」週間が設定され、仲間と楽しく体を動かす機会がつくられている。

複数の種目が経験できる運動部活動

運動部活動の加入率は全学年では8割、2年生のみでは9割以上にものぼる。相撲や陸上、駅伝競技は学校の部活動にはない種目であるが、中体連の大会にも参加が可能であり、興味のある生徒は所属している部以外の種目にもチャレンジすることができる。以前は運動部活動の加入率はそれほど高くなかったが、様々な取組により加入率は上昇している。

保護者・地域との連携

学校体育の施設は体育館とグラウンドが開放され、日常的に地域の人々が活発に利用している。この運動・スポーツに親しむ習慣のある地域性を生かし、体育的行事を通じて保護者と連携する仕組みをつくっている。体育大会や校内ロードレース、舟漕ぎ大会（名中まつり）では保護者も競技に参加したり、ボランティアとして運営を手伝ったりしている。

学校の声

生徒に興味・関心をもってもらえるよう、積極的に情報発信をしています。例えば、掲示物を工夫しています。行事や取組の写真、新聞記事の切り抜き等には、生徒へのメッセージを一言添えています。また、生徒が実施している朝の活動を通して、生徒の変化を地域の人々に見てもらえるようなしかけを考えています。

▲ 教員の一言が添えられた写真